

平成 21 年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)

* 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考になれば幸いです。

現況と見通し(予報対象期間:平成 21 年 10~11 月)

【現況(～9月末まで)】

- ・ 漁況指標値(香住本所の 1 日 1 隻あたり漁獲量)は 88~139kg で推移。
- ・ 幅広いサイズのイカ(胴長 30~70cm)が漁獲されている。
- ・ 漁獲物は、9月下旬時点で胴長 50~55cm(5~6kg)のものが主体。

【今後の漁況予報】

- ・ 今後しばらくは、現在の群(胴長 55cm 前後)が成長しながら漁獲の主体となる。
- ・ 冷水域は、但馬沿岸域(～36° N 以南)に張り出す可能性は小さい。
- ・ 100m深の水温が 15°Cを上回る海域が広がり、漁場の範囲も沖合に拡散する。

* 日本海西部海域の海況予測には、(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所の日本海海況予測システム(JADE)を利用しました。(http://jade.dc.affrc.go.jp/jade/)

1. 漁況の推移 (図1)

漁況の指標としている但馬漁協香住本所の 1 日 1 隻あたり漁獲量の旬別平均値は、8月下旬以降、88~139kg で推移しています。今漁期は、漁獲の始まった 8 月上旬から例年を上回る漁獲が続いており、好調に推移しています。

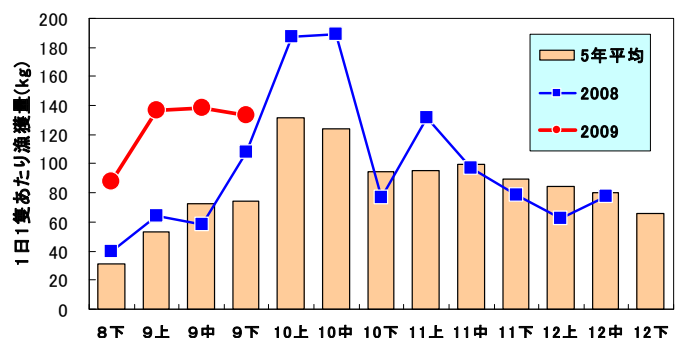


図1 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移(JF但馬香住本所)

2. 漁獲物組成の推移 (図2)

但馬漁協香住本所での市場調査の結果では、漁期開始時から、幅広い体長範囲(胴の長さ;26cm~73cm)のイカが漁獲されていますが、漁獲物のサイズは昨年(図中の青線)に比べるとやや小さめです。

最も漁獲されているサイズは、イカの成長に伴い、9月上旬に 41~43cm(体重 3~4kg)であったものが、9月下旬には 51~53cm(5~6kg)になっています。今後しばらくは、この群が成長しながら漁獲の中心となるものと考えられます。

また、例年、10 月頃に別の小型サイズの群が加入してきますが、今漁期はまだ確認されていません。

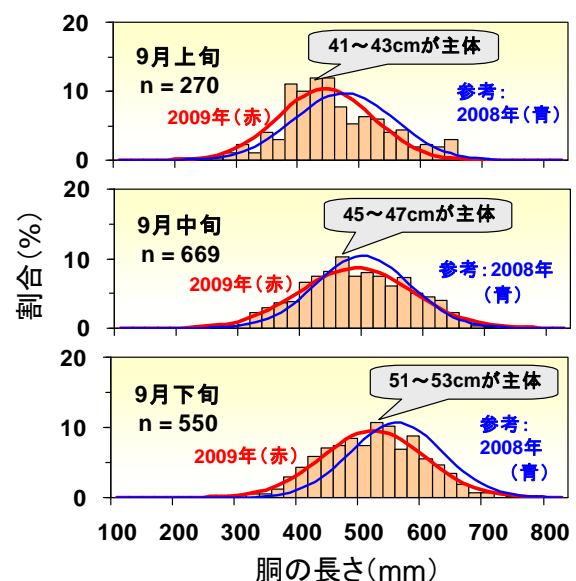


図2 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、**好漁場は水深 50m の水温が 19°C以上、水深 100m の水温が 14~15°C以上の海域に形成されることが分かっています。**また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されています。

今漁期の 100m 深の水温の変化を「日本海海況予測システム」により予測しました(右図)。**太い線で示した水温 15°Cよりも沿岸側が水温条件を満たす「好漁場」となる可能性のある海域です。**漁期を通して、冷水域がソデイカ漁場に張り出すことはないと予想されます。

9月の山陰沖 100m 深の水温図では、**36° N 付近に海岸線とほぼ並行に 15°Cの等温度線があり、但馬沖のソデイカ漁場のほぼ全域が好漁場の条件を満たしていました。**

10月中旬には、15°Cの等温度線が 36° N 以北に北上し、それより南側の海域全体で、100m 深水温が 15°Cを上回ると予測されます。また、冷水域の規模は平年並みでやや離岸するでしょう。

11月上旬になると、15°Cの等温度線はさらに北上するため、好漁場となる海域は拡散すると予測されます。

また、冷水域や暖水域の影響により、海域によっては海流の向きに大きな変化(速い逆潮等)が生じる場合がありますので、作業時にはご注意ください。**海流の予報については、当センターが毎週発表している「海の天気図」もご参照下さい。**

4. その他

気象庁の3ヶ月予報では、日本海沿岸各府県の気温は「平年並または高い」可能性が高いと予想されています。また、日本海区水産研究所の予想では、対馬暖流域の表面水温は「平年並み」、50m 深の水温は「平年並み~やや低め」で推移すると予想されています。海域全体の海況条件としては、概ね平年並みに推移するものと考えられます。

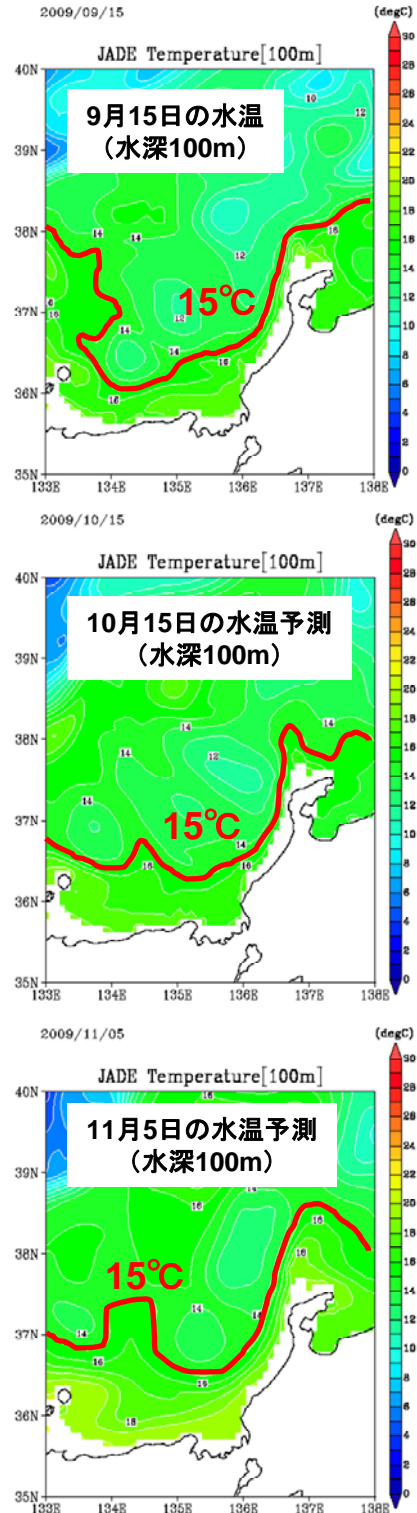


図3 水深 100m の水温分布予測(9~11月)
太線=水温 15°C等温線の目安